

市場予測・将来展望シリーズ ～ Electronic components 編

2018年版 電子部品・デバイス市場の実態と来展望

－ スマートデバイス ～ コンデンサ・キャパシタ・EMC 対策/保護部品・パワー半導体・LED －

Sample

株式会社 日本エコノミックセンター

編集 スマート・デバイスグループ

Copyright JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD.

はじめに

電子部品は、デジタル機器や電化製品に搭載されている部品の総称です。コンデンサやインダクタ（コイル）のような電気信号の入力を受けて電気を蓄積したり整えたりする電子部品を「受動部品」と呼びます。一方、スイッチやコネクターなどはまとめて「機構部品」とも呼ばれます。その他に電力を動きに帰るモータや、物理現象を電気信号に変えるセンサー、無線通信の電波の送受信に使う高周波部品などがあります。

世界で年間の販売台数が約 15 億台に達し、毎年のように新しい機能が追加されるスマートフォン（スマホ）が電子部品の市場をけん引する状況が続くものと見られます。ただし、成長のペースが鈍化し、技術的にも成熟してきました。電子部品メーカーは自動車や医療、ロボットなどスマホ以外の市場の開拓に取り組んでいます。

M&A（合併・買収）や事業の入れ替えも活発になっています。精密格加工技術を持つミネビアと電子部品や回路の技術を持つミツミ電機は 2017 年 1 月に経営統合。またマクセルは 2017 年 10 月に日立マクセルから社名変更しました。太陽誘電はエルナーを 2018 年 4 月に子会社としました（東証二部上場）。TDK は、高周波部品の事業を米クアルコムに売却する一方、米国のセンサー会社を総額 13 億ドルで完全子会社化しています。電子部品メーカー各社は 18 年度も引き続き旺盛な需要に対応し積極的な設備投資を計画しています。

本レポートの第 I 章では、電子部品・デバイス市場の動向と今後の展望について述べています。第 II 章では、コンデンサ市場の世界や国内市場の動向との展望について調査及び分析を行っています。第 III 章では、キャパシタ市場の動向や展望についても同様に述べています。第 IV 章では、EMC ノイズ対策の世界市場と国内市場の動向と展望について。第 V 章では、電子部品・デバイス関連メーカーの動向や展望について掲載しています。

弊社は本年、創業 52 周年を向かえる市場調査・マーケティング会社です。本レポートは、専門のスタッフにより調査・編集されています。本レポートは、電子部品・デバイス業界や市場を、事業・生産・製品動向などを踏まえながら 1 冊（P200）にまとめたものです。なお、将来展望シリーズは、新規参入される企業様を含めた事業計画書の立案、事前調査、実行、検証など幅広く活用されています。

平成 30 年 5 月
株式会社 日本エコノミックセンター 調査部
スマート・デバイスグループ

☆☆☆ 目 次 ☆☆☆

2018年版 電子部品・デバイス市場の実態と将来展望 ～ 将来展望シリーズ

はしがき

第I章 電子部品・デバイス市場の動向と展望

1. 電子部品・デバイスの概要と動向	1
(1) 電子部品の種類と動向	1
(2) 電子部品市場概況と動向	2
(3) 電子部品業界の業界図（製品別）	3
①コンデンサ／キャパシタ世界市場推移・予測（2008～30年度）	5
②インダクタ／ノイズフィルタ世界市場推移・予測	6
③固定抵抗器／受動部品世界市場推移・予測	7
(4) 電子デバイスの種類と動向	8
(5) 電子デバイス市場概況と動向	9
(6) 電子デバイス業界の業界図	10
①IGBT 世界市場推移予測／シェア	11
②MOSFET 世界市場推移予測／シェア	12
③LED パッケージ世界市場推移予測／シェア	13
④LED パッケージ別世界市場推移・予測	14
2. 日系企業グローバル出荷金額推移予測	14
(1) 日系企業グローバル出荷金額推移	15
①日系企業世界出荷金額推移予測	16
②日系企業製品別出荷金額推移予測	17
③日系企業製品別構成シェア	18
3. 電子部品・デバイス国内統計資料	19
(1) 電子部品・デバイス産数量・金額推移（表）	19
①セラミックコンデンサ国内生産推移・実績	20
②フィルタ国内生産推移・実績	21
③アルミ電解コンデンサ国内生産推移・実績	22
④固定抵抗器国内生産推移・実績	23
⑤インダクタ国内生産推移・実績	24
⑥水晶発振子国内生産推移・実績	25
⑦IGBT 国内生産推移・実績	26
⑧LED パッケージ国内生産推移・実績	27
⑨サーミスタ国内生産推移・実績	28
⑩バリスタ国内生産推移・実績	29
(2) 主要電子部品輸出入数量・金額推移（表）	30

①インダクタ輸出推移・実績	31
②セラミックコンデンサ輸出推移・実績	32
③固定抵抗器輸出推移・実績	33
④LEDパッケージ輸出推移・実績	34
⑤インダクタ輸入推移・実績	35
⑥セラミックコンデンサ輸入推移・実績	36
⑦固定抵抗器輸入推移・実績	37
⑧LEDパッケージ輸入推移・実績	38

第Ⅱ章 コンデンサ市場の動向と展望

1. コンデンサ世界市場の現状と展望	39
(1) コンデンサ世界市場規模と動向	39
(2) コンデンサ市場業界図（世界・国内）	40
①コンデンサ世界市場推移・予測（2007～30年度）	41
②セラミックコンデンサ世界市場推移予測／シェア	43
③積層セラミックコンデンサ世界市場推移予測／シェア	45
④アルミ電解コンデンサ世界市場推移予測／シェア	47
⑤タンタル電解コンデンサ世界市場推移予測／シェア	49
⑥フィルムコンデンサ世界市場推移予測／シェア	51
2. コンデンサ国内市場の現状と展望	53
(1) コンデンサ国内市場規模と動向	53
①コンデンサ市場推移・予測（数量・2007～30年度）	54
②コンデンサ市場推移・予測（金額・2007～30年度）	54
(3) コンデンサメーカー別市場動向	55
①コンデンサ日系メーカーシェア（数量ベース）	56
②コンデンサ日系メーカーシェア（金額ベース）	57
(4) コンデンサ種類別市場概況と動向	58
（アルミ電解／積層セラミック（MLCC）／タンタル電解／導電性高分子／フィルム）	
3. 弊社実態調査集計資料	60
(1) 主要メーカー別販売数量・金額一覧（表・2016～18年度）	60
①主要メーカー別販売数量推移予測	61
②主要メーカー別販売金額推移予測	62
(2) 主要メーカーコンデンサ別販売数量・金額一覧	63
(3) コンデンサタイプ別弊社集計・分析結果	68
①セラミックコンデンサ販売数量・金額推移予測	68
・セラミックコンデンサメーカーシェア	69
②積層セラミックコンデンサ販売数量・金額推移予測	70
・積層セラミックコンデンサメーカーシェア	71
③アルミ電解コンデンサ販売数量・金額推移予測	72

・アルミ電解コンデンサメーカーシェア	73
④タンタル電解コンデンサ販売数量・金額推移予測	74
・タンタル電解コンデンサメーカーシェア	75
⑤導電性高分子電解コンデンサ販売数量・金額推移予測	76
・導電性高分子電解コンデンサメーカーシェア	77
⑥フィルムコンデンサ販売数量・金額推移予測	78
・フィルムコンデンサメーカーシェア	79
⑦金属化有機フィルムコンデンサ販売数量・金額推移予測	80
・金属化有機フィルムコンデンサメーカーシェア	81
(4)コンデンサタイプ別販売数量・金額推移予測	82
①コンデンサタイプ別販売数量推移予測	82
②コンデンサタイプ別販売金額推移予測	83

第三章 キャパシタ市場の動向と展望

1. 電気二重層キャパシタ(EDLC)市場の動向と実態	85
(1)電気二重層キャパシタの概要と種類	85
(2)電気二重層キャパシタの市場概況と動向	86
①電気二重層キャパシタ世界市場推移・予測(2008～30年度)	87
②電気二重層キャパシタ世界シェア(数量)	88
③電気二重層キャパシタ世界シェア(金額)	89
④電気二重層キャパシタ国内市場推移・予測(2008～30年度)	90
⑤電気二重層キャパシタ国内シェア(数量)	91
⑥電気二重層キャパシタ国内シェア(金額)	92
2. 電気二重層キャパシタ実態調査集計資料	93
(1)主要国内メーカー別出荷数量・金額一覧	93
(2)主要国内メーカー別出荷数量推移・予測	94
(3)主要国内メーカー別出荷金額推移・予測	95
(4)タイプ別電気二重層キャパシタ市場推移・予測(全体)	96
①タイプ別電気二重層キャパシタ出荷数量推移・予測	96
②タイプ別電気二重層キャパシタ構成比率(数量)	97
③タイプ別電気二重層キャパシタ出荷金額推移・予測	98
④タイプ別電気二重層キャパシタ構成比率(金額)	99
(5)タイプ別電気二重層キャパシタ市場推移予測・シェア(個別)	100
①小型積層型電気二重層キャパシタ市場推移・予測	100
②小型積層型電気二重層キャパシタシェア(数量)	101
③小型積層型電気二重層キャパシタシェア(金額)	102
④大型積層型電気二重層キャパシタ市場推移・予測	103
⑤大型積層型電気二重層キャパシタシェア(数量)	104
⑥大型積層型電気二重層キャパシタシェア(金額)	105

⑦小型円筒型電気二重層キャパシタ市場推移・予測	106
⑧小型円筒型電気二重層キャパシタシェア(数量)	107
⑨小型円筒型電気二重層キャパシタシェア(金額)	108
⑩大型円筒型電気二重層キャパシタ市場推移・予測	109
⑪大型円筒型電気二重層キャパシタシェア(数量)	110
⑫大型円筒型電気二重層キャパシタシェア(金額)	111
(6)タイプ別メーカー別出荷数量推移・予測	112
①小型積層型電気二重層キャパシタメーカー別出荷数量推移・予測	112
②大型積層型電気二重層キャパシタメーカー別出荷数量推移・予測	113
③小型円筒型電気二重層キャパシタメーカー別出荷数量推移・予測	114
④大型円筒型電気二重層キャパシタメーカー別出荷数量推移・予測	115
(7)タイプ別メーカー別出荷金額推移・予測	116
①小型積層型電気二重層キャパシタメーカー別出荷金額推移・予測	116
②大型積層型電気二重層キャパシタメーカー別出荷金額推移・予測	117
③小型円筒型電気二重層キャパシタメーカー別出荷金額推移・予測	118
④大型円筒型電気二重層キャパシタメーカー別出荷金額推移・予測	119
(8)容量別電気二重層キャパシタ出荷数量・金額推移予測	120
①容量別電気二重層キャパシタ出荷数量推移・予測	120
②容量別電気二重層キャパシタ出荷数量構成比率	121
③容量別電気二重層キャパシタ出荷金額推移・予測	122
④容量別電気二重層キャパシタ出荷金額構成比率	123
(9)用途別電気二重層キャパシタ世界市場推移予測(数量・金額)	124
①用途別電気二重層キャパシタ出荷数量推移・予測	124
②用途別電気二重層キャパシタ数量構成比率	125
③用途別電気二重層キャパシタ出荷金額推移・予測	126
④用途別電気二重層キャパシタ出荷金額構成比率	127

第IV章 EMC対策・保護部品市場の動向と展望

1. EMC・ノイズ対策国内市場の動向と展望	129
(1)EMC・ノイズ対策国内市場の動向(2008~30年度)	129
①EMC・ノイズ対策市場推移・予測(数量)	130
②EMC・ノイズ対策市場推移・予測(金額)	131
(2)各種ノイズの発生源と種類	132
(3)EMC・ノイズ対策製品の分類と動向	134
(4)メーカー別EMC・ノイズ対策製品一覧(表)	135
2. EMC・ノイズ対策世界市場の動向と展望(2008~30年度)	136
(1)EMC・ノイズ対策世界市場概況	136
(2)EMC・ノイズ対策世界市場推移予測/構成比率	137
①EMC・ノイズ対策世界市場推移予測(数量)	137

②EMC・ノイズ対策世界市場推移予測（金額）	138
③EMC・ノイズ対策市場製品別推移予測（数量）	139
④EMC・ノイズ対策市場製品別推移予測（金額）	140
⑤EMC・ノイズ対策市場構成比率（金額）	141
3. 弊社実態調査集計資料（2016～2020年度）	142
(1)EMC・ノイズ対策関連メーカー別市場動向	142
①EMC・ノイズ対策市場規模推移・予測（表）	142
②EMC・ノイズ対策市場メーカーシェア（グラフ）	143
③EMC・ノイズ対策市場メーカー別推移予測（グラフ）	144
④EMC・ノイズ対策市場製品シェア（グラフ）	145
⑤EMC・ノイズ対策市場製品別推移予測（グラフ）	146
(2)EMC・ノイズ対策関連製品別市場動向（市場概況・出荷金額・シェア）	147
①ノイズフィルタ	147
②コイル・インダクタ	149
③フェライトコア	151
④チップビーズ（ビーズコア）	153
⑤サージアブソーバ	155
⑥バリスタ（チップバリスタ）	157
⑦ノイズ対策用コンデンサ	159
⑧ノイズ抑制（吸収）シート	161
⑨サーミスタ	163
(3)製品別・メーカー別ノイズ対策市場推移予測（金額）	165
①ノイズフィルタ市場推移予測	165
②コイル・インダクタ市場推移予測	166
③フェライトコア市場推移予測	167
④チップビーズ市場推移予測	168
⑤サージアブソーバ市場推移予測	169
⑥バリスタ市場推移予測	170
⑦ノイズ対策用コンデンサ市場推移予測	171
⑧ノイズ抑制（吸収）シート市場推移予測	172

第V章 電子部品・デバイスメーカーの動向と展望（2016～20年度）

(1)FDK 株式会社	173
(2)エルナー 株式会社	175
(3)株式会社 大泉製作所	177
(4)岡谷電機産業 株式会社	179
(5)釜屋電機 株式会社	181
(6)京セラ 株式会社	183
(7)KOA 株式会社	

(8) 株式会社 指月電機製作所	187
(9) 株式会社 芝浦電子	189
(10) 双信電機 株式会社	191
(11) 太陽誘電 株式会社	193
(12) TDK 株式会社	195
(13) 株式会社 トーキン	197
(14) 日亜化学工業 株式会社	199
(15) ニチコン 株式会社	201
(16) 日本ケミコン 株式会社	203
(17) パナソニック株式会社 AIS 社	205
(18) 北陸電気工業 株式会社	208
(19) 株式会社 MARUWA	210
(20) 株式会社 村田製作所	212
(21) ルビコン 株式会社	215
(22) ローム 株式会社	217
2. 電子部品・デバイス関連メーカーの動向と戦略 (表)	219

【参考】

本書での電子部品（受動部品）の内訳表

分類	品目	内訳
受動部品	コンデンサ	セラミックコンデンサ、アルミ電解コンデンサ アルミ電解コンデンサ、導電性高分子アルミ電解コンデンサ タンタルコンデンサ、電装性高分子タンタルコンデンサ 電気二重層コンデンサ、リチウムイオンキャパシタ その他コンデンサ：紙、マイカ、可変、3端子コンデンサ等
	抵抗器	固定抵抗器：薄膜チップ固定抵抗器（薄膜チップ抵抗器） 厚膜チップ固定抵抗器（厚膜、金属板、チップ抵抗器） ネットワーク固定抵抗器（ネットワーク抵抗器） その他固定抵抗器（リード付き固定抵抗器）、可変抵抗器 ※1 バリスタ（ZnOバリスタ円板形、面実装形、その他バリスタ）
	トランス	鉄心トランス、フェライトコアトランス、その他のトランス
	インダクタ	定型巻線インダクタ 非巻線インダクタ 複合インダクタ（インダクタを複数個） その他のインダクタ：バーアンテナ、フィルターコイル等
	その他	ノイズフィルタ、フェライトコア、ビーズ、水晶振動子※ 上記に該当しない受動部品（サージアブソーバ、被雷管、ESD サプレッサ、メモリスタ、メモリヒューズ等）

※1 本書では受動部品に含める

第 I 章 電子部品・デバイス市場の動向と展望（サンプル）

1. 蓄電デバイスの定義と市場概況

蓄電デバイス（Storage Cell）は、電気エネルギーを化学エネルギーに変えて蓄える部品・デバイスである。以下のように蓄電池とキャパシタに分類する。

そのうち、蓄電池は、化学反応によるため電子を多く放出でき、高いエネルギー密度を得ることができる。高いエネルギー密度では、蓄電デバイスは小型化が可能のため、携帯電話や自動車などに搭載する場合、最適となる。鉛蓄電池が古くからあるが、現在注目されているのが、リチウムイオン電池（LiB）やニッケル水素電池（Ni-MH）である。

また、キャパシタやコンデンサは化学反応を行わないために、充放電のサイクルによって劣化が少ない。エネルギー密度は二次電池より低いものの、バックアップ電源や自動車などの回生エネルギー利用で電気二重層キャパシタが採用される。

蓄電デバイス（蓄電池・キャパシタ）の分類

	蓄電池（二次電池）	キャパシタ（コンデンサ）
蓄電デバイス (Storage Cell)	リチウムイオン二次電池（LiB）	電気二重層キャパシタ（EDLC）
	ニッケル水素電池（Ni-MH）	リチウムイオンキャパシタ（LiC）
	鉛蓄電池	※ アルミ電解コンデンサ

※ 本書ではアルミ電解コンデンサを含めない

リチウムイオン二次電池（LiB）は、非水電解質二次電池の一種で、電解質内のリチウムイオン電池が電気の伝導を担う二次電池である。現在では、正極にリチウム金属酸化物を用いて、負極にグラファイトなどの炭素材を用いるものが主流である。

LiB の特徴として、通常は非水系の電解液を使用するため、水の電気分解電圧を超える高い電圧が得られ、エネルギー密度も高い。こうした特徴からノートパソコンなど携帯機器に多く使用されている。メモリー効果が小さいことも、携帯電話や一部のオーディオプレーヤーなど継ぎ足し充電する機器に適している。LiB の金属リチウムに対する最大の利点は、 dendrite 問題（電極をショートさせる現象）がほとんど存在しないことである。また、LiB の自己放電特性（保持特性）は、ニカド電池やニッケル水素電池よりも良い。

電気二重層キャパシタ（Electric double-layer capacitor : EDLC）は、電気二重層という物理現象を利用することにより、蓄電効率が著しく高められたキャパシタである。20 世紀末より EDLC の開発が始まり、今後性能がさらに向上すれば一部のバッテリーを代替する可能性がある。EDLC は、陽極と陰極の二つの電極を持つが、この二つが二重層という名称の素になったのではなく、両極それぞれの表面付近で起きる物理現象である「電気二重層」が由来である。EDLC は、ウルトラ・キャパシタやスーパー・キャパシタとも呼ばれる。EDLC の主な特徴は、内部抵抗が低く、短時間で充放電が行われ、充放電による劣化が少ないので、製品寿命が長い。その他、電圧が低く、自己放電によって時間とともに失われる電気が比較的多く、充放電時に電圧が直線的に変化することなどが挙げられる。

リチウムイオンキャパシタ（LiC）は、一般的な EDLC の原理を使用しながら、負極材料としてリチウムイオン吸蔵可能な炭素系材料を使用し、リチウムイオンを添加することで、

第II章 コンデンサ市場の動向と展望（サンプル）

1. コンデンサ世界市場の現状と展望

(1) コンデンサ世界市場規模と動向

弊社予想によると、201X年度の主要コンデンサ世界市場は、数量ベースで2兆3,698億個、金額ベースで1兆7,660億円となった（2015年度は1兆7,660億円）。

電子部品の世界需要は底固い。円高、原材料高騰に加えて、サブプライムローン（信用度の低い個人向け住宅融資）問題に端を発した米国の減速や金融不安の影響はほとんどなくなり、回復に向かっている。ただ、欧州などの政情不安や財政危機の影響は否めない。

原材料が下落する一方で、部品の販売価格下落も進んでいる。特に下落幅が大きいのが、コンデンサや抵抗器などの受動部品である。セラミックコンデンサは、セットメーカーからの値下げ圧力が強まったことに加え、国内外の競争激化により販売価格は下がっている。

メーカー各社が増産の投資を進めてきたところに、韓国、台湾などのアジアメーカーの攻勢もあって、低価格化が進行している。今後も数量ベースに比例した金額ベースでの伸びは期待できない。

数量や金額に関してマイナス要因もあるものの、今後も自動車 スマートフォンやタブレット端末、LED照明関係や新エネルギーなどの環境・エネルギー関連やウェアラブル機器などアプリケーションの拡大が期待できるため、増加傾向は継続するものと見られる。

コンデンサ世界市場推移予測

(単位：億個)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
セラミック					
(内 積層)					
アルミ電解					
タンタル電解					
フィルム					
電気二重層					
※ 合計					

※ その他コンデンサを含む

コンデンサ世界市場推移予測

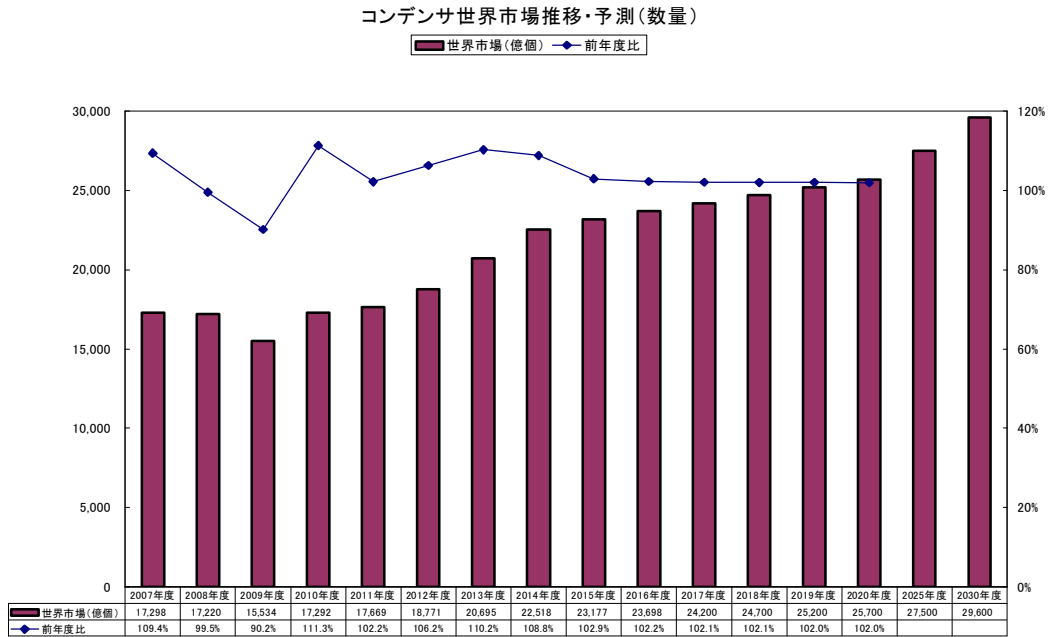
(単位：億円)

	2016年度	※2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
セラミック					
(内 積層)					
アルミ電解					
タンタル電解					
フィルム					
電気二重層					
※ 合計					

※ その他コンデンサを含む

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

①コンデンサ世界市場推移・予測（数値はサンプル用）



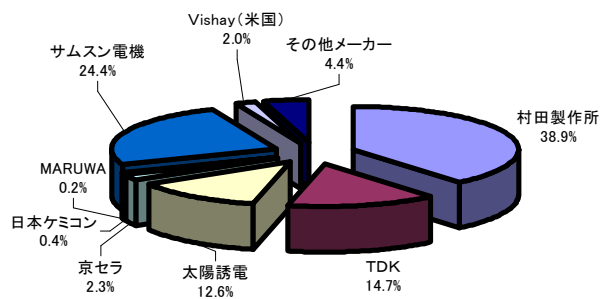
※ 日本エコノミックセンター予測

※ サンプルのため以下の棒グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

②セラミックコンデンサ世界メーカーシェア（データはサンプル用）

セラミックコンデンサ世界シェア(金額ベース) 2016年度
(※ 他に、AVX(米国)、KEMET(米国)など)



※ サンプルのため以下の円グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター推定を含む

第三章 キャパシタ市場の動向と展望（サンプル）

1. 次世代キャパシタ（LiC）市場の動向と実態

(1) リチウムイオンキャパシタの概要と歴史

①LiCの概要

リチウムイオンキャパシタ（LiC）とは、一般的な電気二重層キャパシタ（EDLC）の原理を使用しながら、負極材料としてリチウムイオン吸蔵可能な炭素系材料を使用し、リチウムイオンを添加することで、エネルギー密度を向上させたキャパシタである。正極と負極とで充電・放電の原理が異なり、リチウムイオン二次電池（LiB）の負極と電気二重層の正極を組み合わせた構造を持っている（非対称型）。性能面では既存のEDLCの市場を代替する可能性もあって、LiCに期待されている。

LiCは、セルの電圧と負極の静電容量が増加するため、従来のEDLCと比較してエネルギー密度が優れている。従来のキャパシタ電圧は2.5V～3V程度であるが、リチウムイオンをあらかじめ負極にドーピングすることによって、4V程度まで上昇させることができる。セル内のエネルギーは電圧の2乗に比例するために、電圧上昇分によってエネルギーの向上に寄与できる。また、リチウムをプレドーピングされた負極は、従来のEDLCで主に使用されている活性炭と比較して、数十倍の静電容量を保有している。そのため、セル内全体の静電容量は理論上で約4倍にまで増加して、その分のセルのエネルギーは高まることとなる。これらの要因によってLiCは、通常のキャパシタと比較してセルのエネルギーを飛躍的に高めることが可能となっている。

その他の特徴として、電流の出力密度、寿命、メンテナンスもEDLCと同等レベルであり、自己放電も小さい。リチウムイオン電池（LiB）と比較して、熱暴走を起こしにくく安全性が高い、下限電圧に制限がある、過放電が進むとセルが劣化するため、電圧監視のための制御回路が必要となる、電気二重層と比較して高温特性に優れている等が挙げられる。

LiCの正極が電気二重層を形成し物理的な作用で充放電するのに対し、負極はLiの化学反応によって充放電する。エネルギー密度が高いのは、負極及び静電容量が増大したため。

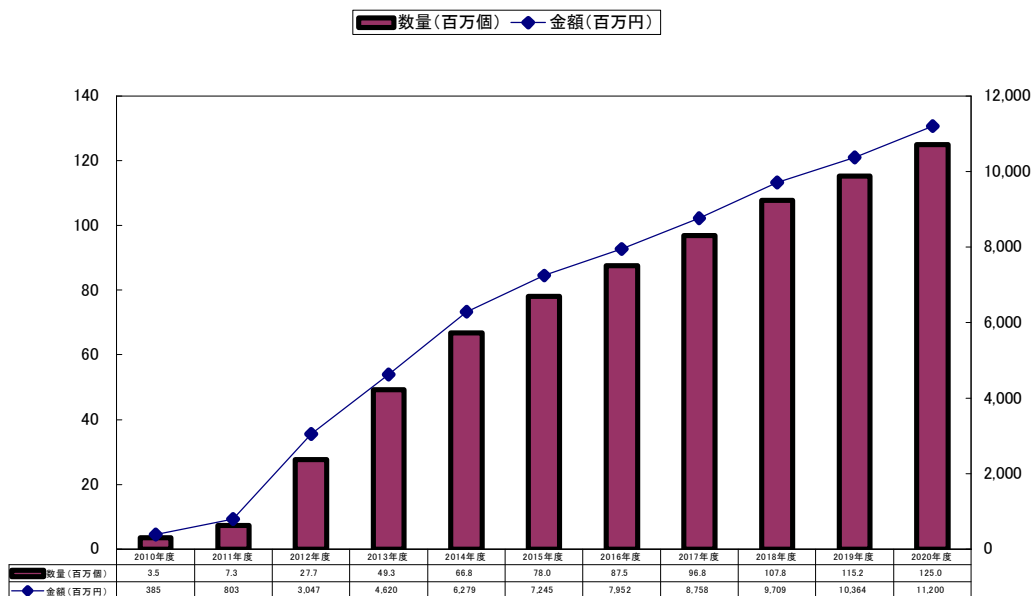
②LiCの歴史

電解液にリチウム塩を使っているキャパシタは、既に昭栄エレクトロニクス（2010年3月、太陽誘電エナジーデバイスへ社名変更）がコイン型タイプのキャパシタ（PAS）に適用、実用化しているが、積層型、円筒型などの大型については、これまでに実用化されていなかった。2005年11月には、富士重工業が負極材料にポリアセン系材料を使用して負極にリチウムイオンを大量にドーピングするキャパシタ技術を公開したことで、LiCの開発が加速した。この技術はカネボウが開発したもので、2006年2月に日本マイクロコーティング、同年6月に昭栄エレクトロニクスにそれぞれLiCに関する技術が供与された。

現状では旭化成FDKエナジーデバイス、JMエナジー、NECトーキン、太陽誘電、アドバンスト・キャパシタ・テクノロジーズ、新神戸電機などがLiCを開発中である。製品タイプとしては、薄型（ラミネート型）と円筒型（ピストン型）がある。

①リチウムイオンキャパシタ市場推移・予測（数値はサンプル用）

リチウムイオンキャパシタ世界市場推移・予測



※ 2015年度までは実績、16年度は予測

※ サンプルのため以下の棒グラフを省略

※ 以上、日本エコノミックセンター作成

第IV章 EMC ノイズ対策部品市場の動向と展望（サンプル）

1. EMC・ノイズ対策国内市場の動向と展望

(1) EMC・ノイズ対策国内市場の動向

① EMC・ノイズ対策国内市場概況

ノイズ対策部品の重要性が一段と高まっている。デジタル機器における高速化、高周波の利用の多様化などで、ノイズが社会的な問題に発展。各国はノイズに関する法規制を強化する一方、業界ではノイズを出さない、ノイズに耐えられる製品の開発が定着化している。そうした中、自動車は快適、信頼性、安全などをキーワードに社内ネットワークのノイズ対策を強化。スマホでは超小型ノイズ対策部品の開発が活発化している。産業機器分野は太陽光発電、インバータの普及に伴う大型ノイズ対策部品の必要性が高まっている。

高速、高周波デジタル技術をキーに IoT 社会が到来していることを背景に、高周波ノイズを出さない、耐ノイズ性の強化という総合的な EMC ソリューションが重要となってくる。USB2.0、IEEE1394 など、ギガヘルツ時代の突入した高速差動伝送の世界が広がっている。携帯電話では高密度実装化の進展で機器内部での電磁波干渉が起こる。多機能化する薄型テレビにおける異種周波数帯の利用、自動車の安全、快適、省エネ、環境などを踏まえた新車開発が活発化。対策部品や材料を手掛ける企業では設計、対策、評価、開発といったソフトからハードまで一貫したソリューションを提案している。

スマートフォン、パソコン関連を中心とした IT 製品、さらにはデジタル家電、自動車などの成長分野に共通している点は高周波化、高速化のデジタル技術が採用されていることである。これにより、必然的に高周波ノイズの問題が発生することから、ノイズ対策部品の需要は電子部品前提の伸び率よりも高い。特にスマホ、タブレット端末を中心とした携帯機器では超小型のノイズ対策部品を数多く搭載している。また、液晶テレビやプラズマテレビも。多機能化でコイル、コンデンサの搭載点数は従来よりも増えている。自動車は通信機器の強化によって高周波ノイズ対策の重要性がさらに高まり、安全、高信頼性などを備えた各種部品が搭載されるようになっている。

2016 年度の国内における電子部品・デバイスの生産量及び金額は、JEITA によると 9,328 億円（前年度比 101%）となった。2015 年度は、9,285 億円（前年度比 97%）であった。2016 年度は、1 月、2 月ともに前年度比を上回っている（2 月は前年度比 103%）。当社日本エコノミックセンターの調査では、2016 年度における EMC・ノイズ対策市場規模（日系メーカー販売金額ベースで国内+輸出+海外生産）は 7,081 億円（前年度比 102.8%）となった。2017 年度も世界経済の低迷などの影響を受けるが、7,258 億円（同 102.5%）と増加の見込みである。また 2018 年度も同 7,401 億円（同 101.9%）と引き続き増加を見込む。

EMC・ノイズ対策市場推移予測（日系メーカー）

単位：百万個/百万円

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
出荷数量					
出荷金額					

※ 日本エコノミックセンター作成

第V章 電子部品・デバイス関連メーカーの動向と展望（個票）

1. 電子部品・デバイス国内主要メーカーの動向と展望

※ サンプルのため以下の記載内容を省略

会社名	〇〇〇〇 株式会社
本店	
会社概要	
事業内容	
製品動向	
生産拠点	
研究／開発	
担当／販売	

電子デバイス業績推移予測

（単位：百万円）

業 績	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (予想)	2019年度 (予測)	2020年度 (予測)
総売上高 (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%
製品売上高 (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%
売上割合	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%

※ 日本エコノミックセンター推定を含む電子デバイス別業績推移予測

※

業 績	2016年度 (実績)	2017年度 (実績)	2018年度 (予想)	2019年度 (予測)	2020年度 (予測)
コンデンサ (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%
キャパシタ (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%
ノイズ対策 (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%
その他 (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%
合 計 (対前年比)	- -%	- -%	- -%	- -%	- -%

※ 日本エコノミックセンター推定を含む

2018 年版 電子部品・デバイス市場の実態と将来展望

発行: 2018年5月25日 第1版
定価: 本体価格 70,000 円+消費税
発行人: 石澤 宜之
編集: 株式会社 日本エコノミックセンター
発行所: 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-11-5 3F
株式会社 日本エコノミックセンター
JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD.
TEL:03-3808-0611(代)
FAX:03-3808-0617
UTL:<http://www.j-economic.co.jp>
E-mail:info@j-economic.co.jp

- 《禁無断コピー・転載》 万一、落丁の場合はお取り替え致します。

Copyright(C) 2018 JEC Co.,TD.

2018 Printed in Japan

ISBN-978-4-907908-75-1

△▼△▼ 主要調査レポートご案内(最新版) ▼▲▼▲

～ 市場予測・将来展望シリーズ - 創エネ・蓄エネ・省エネ関連 ～ 好評発売中!

※ 価格は、すべて税抜きです。

新刊 2018 電子部品・デバイス市場の実態と将来展望 ～ コンデンサ・Pキャパシタ・EMC 対策・パワー半導体	B5 判・CD-ROM 220 頁 ¥70,000～¥110,000 2018 年 5 月刊
2018 蓄電池・キャパシタ市場の実態と将来展望 ～ 全固体電池と蓄電池 & キャパシタ市場実態予測	B5 判・CD-ROM 200 頁 ¥70,000～¥110,000 2018 年 4 月刊
2018 スマートエネルギー市場の実態と将来展望 ～ 太陽光・風力・燃料電池・バイオマス・地熱・水力	B5 判・CD-ROM 250 頁 ¥75,000～¥110,000 2018 年 3 月刊
2018 二次電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代電池・二次電池市場実態/予測・関連部材	B5 判・CD-ROM 210 頁 ¥70,000～¥110,000 2018 年 2 月刊
2018 太陽光発電市場・技術の実態と将来展望 ～ 地産地消・太陽光発電市場実態/予測・関連部材	B5 判・CD-ROM 210 頁 ¥70,000～¥110,000 2018 年 1 月刊
2018 次世代自動車市場・技術の実態と将来展望 ～ 次世代自動車・環境対応車市場予測・インフラ	B5 判・CD-ROM 220 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 12 月刊
2018 燃料電池市場・技術の実態と将来展望 ～ 燃料電池市場予測・燃料電池車・関連部材/技術	B5 判・CD-ROM 210 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 11 月刊
2018 コンデンサ市場・部材の実態と将来展望 ～ コンデンサ市場実態/予測・関連部材・応用製品	B5 判・CD-ROM 210 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 10 月刊
2017 スマートグリッド市場の実態と将来展望 ～ スマートグリッド市場実態/予測・IoT・仮想発電所	B5 判・CD-ROM 200 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 9 月刊
2017 リチウムイオン電池市場の実態と将来展望 ～ 次世代リチウムイオン電池市場予測・部材/技術	B5 判・CD-ROM 210 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 8 月刊
2017 スマートコミュニティ市場の実態と将来展望 ～ スマートコミュニティ市場予測・関連市場/関連技術	B5 判・CD-ROM 200 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 7 月刊
2017 EMC・ノイズ対策市場の実態と将来展望 ～ EMCノイズ対策市場実態/予測・技術・応用製品	B5 判・CD-ROM 200 頁 ¥70,000～¥110,000 2017 年 6 月刊
2016 スマートハウス市場の実態と将来展望 ～ スマートハウス市場実態/予測・HEMS・関連機器	B5 判・CD-ROM 200 頁 ¥70,000～¥110,000 2016 年 9 月刊

各調査レポートのお問い合わせ・お申し込みは

創業 51 周年 (Since 1966)

事業構想・企画・市場調査・出版

株式会社 日本エコノミックセンター

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1丁目11番5号 日本橋吉泉ビル 3F

Tel: 03-3808-0611 / Fax: 03-3808-0617

www.j-economic.co.jp / mail@j-economic.co.jp